

共催：国立大学法人富山大学、北日本新聞社  
 後援：NHK富山放送局  
 特別協力：小泉家、小泉八雲記念館、松江市立中央図書館、焼津小泉八雲記念館、池田記念美術館、富山八雲会

生誕170年  
**「ラフカディオ・ハーンの共感力  
 — 発見、探求、そして発信へ —**

2020年4月11日(土)～7月5日(日)

観覧料 一般400円(320円) 大学生200円(160円) | 予約料 一般前売り320円

「耳なし芳一」「雪女」などの作者として知られるギリシヤ生まれの作家、ラフカディオ・ハーン(小泉八雲1850～1904)は、1890年(明治23)の来日後14年の間に、日本に関する数々の著作を残しました。本展では、自身の体験をもとに考察を深めた日本文化論、「怪談」等の再話作品、日本の学生たちに向けた文学講義等を通じて、異文化や他者への温かい共感力に満ちたハーンの世界を探ります。貴重な直筆資料や愛用品、蔵書(ヘルン文庫)、関連資料も展示します。



共催：北日本放送 後援：富山新聞社

**「国際アンデルセン賞受賞記念展 角野栄子の魔女」**

2020年7月26日(日)～9月13日(日)

観覧料 一般500円(400円) 大学生250円(200円) | 予約料 一般前売り400円

絵本から児童文学、自伝的小説まで様々な作品を生み出した角野栄子は、ユーモアを巧みに織り交ぜた作風が支持され、2018年、「小さなノーベル賞」とも呼ばれる「国際アンデルセン賞作家賞」を受賞しました。80歳を超えてなお創作意欲は盛んで、作品は子どもだけでなく幅広い世代に親しまれています。

本展では、主人公キキが様々な人との出会いにより成長する心情を鮮やかに描いた代表作「魔女の宅急便」や、現在までに42作を超える人気作「アチャコッチ・ソッチの小さなおぼけ」シリーズを中心に、角野の豊かな想像力とユーモアに支えられた多様な作品群を紹介します。




主催：高志の国文学館 共催：北日本新聞社、チューリップテレビ  
 特別協力：滝田洋二郎 協力：エー・チーム、富山県ロケーションオフィス

**「映画監督 滝田洋二郎展」**(仮称)

2020年9月19日(土)～11月30日(月)

観覧料 一般500円(400円) 大学生250円(200円) | 予約料 一般前売り400円

「正生義士伝」や「バッテリー」、「天地明察」など話題の文学作品をいち早く映像化して文芸映画の複雑に挑む、富山県出身の映画監督・滝田洋二郎。初めて撮影した一般映画「コック雑誌なんかいらない」が、ニューヨーク近代美術館のNew Directors/New Filmsやカンヌ国際映画祭で上映されて注目を集め、以降コメディや時代劇、ヒューマンドラマなどさまざまなジャンルの映画を発表しています。映画「おくりびと」では、日本の作品で初めて米国アカデミー賞外国語映画賞受賞という快挙を成し遂げます。

本展では、代表作を通して滝田監督の映画作りの現場を紹介します。また、人間の繊細な感情や心理が活かされた彼の作品世界から、その演出の魅力と背景を探るとともに、映画制作にかけた情熱と想いに、自作を語るインタビュー映像で迫ります。




共催：北日本新聞社、富山テレビ放送 特別協力：久泉通雄

**「知識人が見続けた富山の文化 — 久泉通雄の書齋から」**(仮称)

2021年2月6日(土)～3月27日(土)

観覧料 一般400円(320円) 大学生200円(160円) | 予約料 一般前売り320円

幅広い関心と専門領域、類まれな行動力、誠実な人物と人間的な魅力、なにより富山の自然と風土、文化を愛する歌人、久泉通雄。大作家の歌のこころを引き継ぎ、万葉集の故地に息絶な文化が花開くことを願い、精力的に活躍しています。

本展では、文学と自然科学の双方に通じ、美術に造詣深く、また、多くの文学者、美術家との交友を通じて、富山の教育と文化の発展に力を尽くしてきた多彩な仕事を紹介し、富山の文化の過去と現在について考え、その未来を展望します。




